

2010年5月25日

(これは、ロンドンにて2010年5月4日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータードは、5月4日付で、2010年度第1四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

当行グループは、今年第1四半期において、前年同期比で増益・増収を計上し、力強いスタートを切ることができました。コンシューマーバンキング部門の営業収益および税引き前利益に大幅な増益が見られたことで、ホールセールバンキング部門との収益バランスの改善につながりました。また、ホールセールバンキング部門における顧客からの収益についても、顧客リレーションシップをさらに深めたことが功を奏し、今期も底堅い伸びを示しています。

グループ業績については、高い流動性、潤沢な資本力を保持すると共に、リスク・コスト面で厳格な管理を行っていることで、大変好調に推移しています。

コンシューマーバンキング部門における営業収益(アンダーラインベース)は引き続き上昇局面にあり、前年同期比で二桁成長を達成し、平均値で前年下半期を上回っています。

顧客預金および融資残高は、担保付融資と当座・普通預金(CASA)事業への注力により、引き続き増加傾向にあります。住宅ローン事業についても、競争が激化する中、利幅の下げ圧力を十分にはねのけるに足る堅調な業績の伸びを示しています。CASA口座残高は増加の傾向にあるものの、利幅は、昨今の低金利を受けて下げ局面にあります。取引・運転資金残高の持続的な増加は、特に 中小企業向け(SME)事業の底堅い成長につながっています。ウェルスマネジメント事業の営業収益についても、特に、香港、シンガポール、インドなど、複数の事業拠点で引き続き改善が見られました。

コンシューマーバンキング部門では、顧客リレーションシップ・マネージャー(RM)の採用とブランド構築に焦点を当て、確実な収益成長を目指した投資を行っています。

また、リスク管理への慎重なアプローチと積極的な債権回収、さらに的確なマクロ経済予測により、同部門におけるアセット・クオリティ(資産の質)の向上につながりました。延滞指標も引き続き改善しており、四半期ベースでの不良債権残高削減についても、予想通り順調に進んでいます。

今四半期におけるホールセールバンキング部門の業績については、同部門総収益の8割以上を占める顧客からの収益が前年同期比で20%超の増加と最高値を更新し、今年も幸先の良いスタートとなりました。自己取引による収益伸び率は、昨年上半期と比べるとかなり低くはあるものの、同下半期とほぼ同様の水準で推移しています。

金融貿易、キャッシュマネジメント、支払い業務、直接的な為替ヘッジ業務を軸とする同部門のコマーシャルバンキング事業も、クロスボーダー取引や投資のための資金フローの拡大を可能とする当行グループの際立った業務能力と高い競争力から、好調な業績を上げています。特に、貿易金融事業については、取引量増加、利幅拡大により、競争が激化する中においても業績が堅調に推移しています。しかしながら、キャッシュ・マネジメントについては、利幅の下げ圧力により取引量の伸びが相殺されています。

コーポレートファイナンス事業についても、大幅な収益増加と順調な大型案件の受注の伸びから、今四半期の業績が好調なものとなっています。

ホールセールバンキング部門の費用については、昨年下半年における従業員数の増加や投資の影響で、前年同期比の平均値を上回りました。その結果、今四半期のコスト増加率は、予想通り、営業収益のそれを超えるものとなっています。また、法人向け融資に関するアセット・クオリティは、実質的な不良債権が発生しなかったことから順調に推移しています。「早期警告」指標については、昨年3月のピーク値水準から下落し、昨年末と同レベルとなっており、特定の業種や地域市場への偏りは見られません。

当行グループは、引き続き潤沢な資本を有し、リスク加重資産(RWA)についても慎重な管理体制を敷いています。

また、引き続き昨年末と同様の預貸率(A/D率)に押さえることで、堅調な流動性レベルを維持しています。預金残高についても増加傾向にあり、また、インターバンク市場において資金放出ポジションを保つことで、同市場で重要な役割を果たしています。

総じて、今年度におけるグループ業績は、利幅の下げ圧力がさらに強まり、市場での競争が激化する中、大変順調なスタートを切っており、今四半期の税引き前利益・営業収益については、共に最高益を更新しています。この成長機運を確かなものとするため、引き続き両部門への投資を勧めていく所存です。また、バランスシートについても、これまでどおり慎重かつ積極的な管理体制で臨んでおり、資本・流動性に関する当行グループのポジションも引き続き大変良好なものとなっています。次期業務予想については、6月の発表を予定しております。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7245
Ashia Razzaq, Investor Relations, Asia +852 28203958
Jonathan Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語での問い合わせは以下へご連絡ください。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9333

Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できるとされる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご確認ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。